

「藤戸」を歩く

新緑の候 皆さまにはご清祥でお過ごしのこととお慶び申し上げます。いつも、廣田鑑賞会をご支援いただき、ありがとうございます。さて今回は『平家物語』『藤戸』を出典とした曲です。

児島の領主という詞章をもとに、過口、岡山県倉敷市に行つて参りました。現地に行つてみると、現在の児島と当時の児島は全く別の場所であることがよくわかります。当時の児島・藤戸合戦古戦場一帯の藤戸海峡は埋め立てられ、今では畑の中に住宅地が点在する長閑な田園風景になっています。

佐々木盛綱先陣の場所（西明寺）の高台から周囲を見渡すと、埋め立てられた平地の所々に盛り上がった土地が点在し、海に浮かぶ群島があったことがわかります。浅瀬を渡つて攻め寄せる源氏の人馬の声や、平家の白旗がひしめき合う光景が浮かぶようでした。昔は境内を少し深く掘ると、人馬の白骨が出てきたそうです。

土地の方に聞くと、「藤戸」の男が沈められたという浮州岩跡は、潮溜まりで色々な物が流れ着いた場所だったといえます。高速道路の高架の下になって農業用水路とも見まがう小さな川には、藤戸合戦古戦場腸川（はらわたがわ）の碑がありました。源平合戦の昔、平家の武將の腸が沢山流れてきたという、血なまぐさい謂れも教えていただきました。

盛綱が浦男の供養を盛大におこなつた藤戸寺。そのちょうど向かい側、藤戸合戦の当時は海峡の中に浮かぶ小島だった経ヶ島は、今は盛綱橋を渡つてすぐの天城小学校横にあり、頂上には浦男の供養塔と経塚が納められています。他にも盛綱が最初に馬を乗り入れた「乗出岩」、「平家本陣跡」などを巡つて帰京しました。浅瀬の目印に笹をさしたことから、浦男の母は笹（佐々木）を見れば憎いと思つて抜いていったため、笹が生えなくなつたという話も古跡の案内に書いてありました。

源平藤戸合戦に思いを馳せ、どうぞ、ゆっくりと「藤戸」の舞台をご高覧ください。

今年も宇治田原の新茶をご用意し、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

平成十八年 臯月吉日

廣田 幸稔



西明寺境内の高台から藤戸  
周辺を臨む 遠方の森が児  
島の面影を残す 盛綱は写  
真左方の源氏本陣から浅瀬  
を渡ってここに上陸した



浮州岩跡  
岩は現在醍醐寺にある



近くの方に腸川の話聞く



倉敷川（藤戸川）にかかる  
盛綱橋。橋上に盛綱の像  
藤戸寺にて

